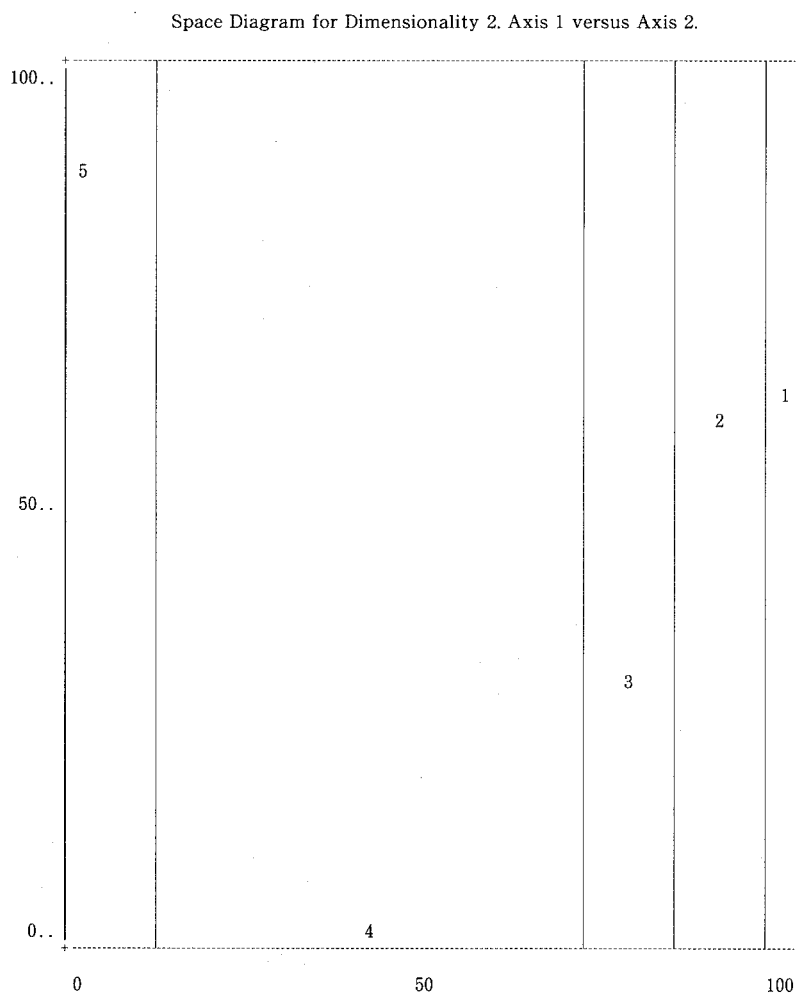


図2 居住・所属エリアへの愛着感に関する諸項目の SSA マップ
——日本のデータ——



- 1 (問 1a) 今住んでいる地区
- 2 (問 1b) 今住んでいる市区町村
- 3 (問 1c) 今住んでいる都道府県
- 4 (問 1d) 日本
- 5 (問 1e) アジア

を示している場合には、これを「尺度分析 (Scale Analysis)」にかけると、これら諸変数が Guttman Scale を構成しているということである (岡野市郎、福島正治「ラデックス論」、三好稔編著『心理学と因子分析』、誠信書房、1962年、277頁)。

さらに、Guttman は、以上のような「シンプレックス」の性質を視覚的に描写する方法を考案している。それが Smallest Space Analysis (SSA) と呼ばれる多次元尺度解析法である。こ

こではイスラエル・ヘブライ大学で開発された HUDAP を用いて、日本のデータを分析した結果の 2 次元マップ (図 2) をあげておきたい。

この SSA マップから、さまざまな居住・所属エリアへの愛着感の諸変数が右から左へ、「今住んでいる地区①」「今住んでいる市区町村②」「今住んでいる都道府県③」「日本④」「アジア⑤」という序列 (rank order) で空間を五つの部分にスライスするように分割していることがわかる。こ